

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)  
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成29年12月  
福島県 二本松市

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成29年12月時点

1)事業の実施概要

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	基幹/ 効果促進	事業 実施 主体	全体事業費 (注3)	全体事業 期間 (注4)	年度事業費(注5)			評価 実施時期(注6)	その他
								平成25年度	平成26年度	平成27年度		
1	A - 1 - 1	二本松市公園遊具更新事業	二本松市全域 安達ヶ原ふるさと村公園等6公園	基幹	市	102,585	25	(102,585) 102,585			平成26年12月	
2	A - 1 - 2	二本松市公園遊具更新事業	二本松市全域 杉田仲之内公園等4公園	基幹	市	14,247	25~26		(14,247) 14,247		平成27年12月	
3	B - 1 - 1	屋内市民プール施設整備事業	二本松市表地区 屋内市民プール施設整備	基幹	市	(1,571,696) 2,420,180	25~28	(30,752) 47,353		(1,567,515) 2,409,079	平成29年12月	
4	C - 1 - 1	安達ヶ原ふるさと村公園屋内遊び 場拡張事業	二本松市安達ヶ原 安達ヶ原ふるさと村公園(げんき キッズパークにほんまつ)	基幹	市	(201,458) 201,458	25~26		(201,458) 201,458		平成27年12月	
5	◆ C - 1 - 1 - 1 - 1	安達ヶ原ふるさと村公園屋内遊び 場プレイヤー育成事業	二本松市安達ヶ原 安達ヶ原ふるさと村公園(げんき キッズパークにほんまつ)	効果促進	市	(346) 354	25~26		(346) 354		平成27年12月	
6	◆ B - 1 - 1 - 1 - 1	屋内市民プール外構整備事業	二本松市表地区 屋内市民プール外構整備事業	効果促進	市	(46,915) 193,861	27~28			(46,915) 193,861	平成29年12月	

2)事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)

指標	従前値	目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)	
		基準年度	目標年度	基準年度	確認年度						
目標1 市内小中学生における全国体力・運動能力、運 動習慣等調査での県平均を下回り努力を要する 項目の減少(運動能力の向上)	53(学年・男女・種目別項目)	H25	47(学年・男女・種目別項目)	H29	43(学年・男女・種目別項目)	H28	16%	二本松市教育委員会による調査	各地域の主要な公園の遊具が更新された事や、屋内での遊び場、プールが整備された事により、運動の機会が増加が図られたため、体力・運動能力の向上に繋がったと考えられる。	当初の目標を達成することができたが、引き続きこの状態を維持できるよう、本事業で準備を行った運動施設を特別に活用し、定期的に運動教室を開く等、利用者の拡大に努めながら、体力・運動能力の更なる向上が図れるよう支援を行っていく。	A-1-1、A-1-2 B-1-1、C-1-1
目標2 市内小学生における肥満傾向児童割合の減少 (運動能力の向上)	12.14%	H25	10.45%	H29	11.46%	H29	40%	二本松市教育委員会による調査 (平成29年度安達地区学校保健統計)	肥満傾向の児童は減少したが、目標値は達成できなかった。これは、夏日本県広域より6月7ヶ月が経過し、乳幼児期に外遊びができてきた室内で過ごした、外遊びの習慣がない児童が多かった事も一因と考えられる。	当初の目的達成には至らなかったが、引き続き本事業で整備を行った運動施設を有効に活用し、定期的に運動教室やイベントを開催することで、利用者の拡大に努め、幼少期からの運動を習慣づけられるよう関係各課と協力して事業を推進していく。	A-1-1、A-1-2 B-1-1、C-1-1
目標3											

3)その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

指標	従前値	目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)	
		基準年度	目標年度	基準年度	確認年度						
目標1 安達ヶ原ふるさと村公園(屋外)等、10公園の利 用者数(小学生以下)の増加	11,098人/月	H25	未設定	H27	20,181人/月	H27	100%	利用者実績調査	遊具更新により小学生の増加を確認。	C-1-1	
目標2 市民プールの中学生以下利用者数の増加	5,838人/年 ※7月~8月のみの利用	H25	34,000人/年 ※通年利用	H29	26,212人/年 ※3月~8月の17ヶ月間	H29	73%	利用者実績調査	従来の屋内温水プールの整備により、年間を通しての利用が可能となり、利用者が増加した。	引き続き広域を行うとともに、開催している水泳教室等のプログラムを充実させることで、水泳が苦手な子どもでも利用できる環境を整え、利用者の更なる拡大を目指す。	B-1-1、◆B-1-1-1
目標3 安達ヶ原ふるさと村公園の屋内遊び場利用者数 の増加	245(人/日)	H26	335(人/日)	H27	340(人/日)	H27	106%	利用者実績調査	遊び場の拡張と多様な遊具の充実により、乳幼児の利用者の増を確認。	屋内遊び場の整備以来多くの子どもで賑わい目標を達成できた。今後も子ども達がストレスなく快適に利用できるよう施設運営を行っていく。	C-1-1、◆C-1-1-1
目標4											
目標5											

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱列表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ことの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画上全く記載をしていないもの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1-B-1.2.C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2.C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成26年12月時点

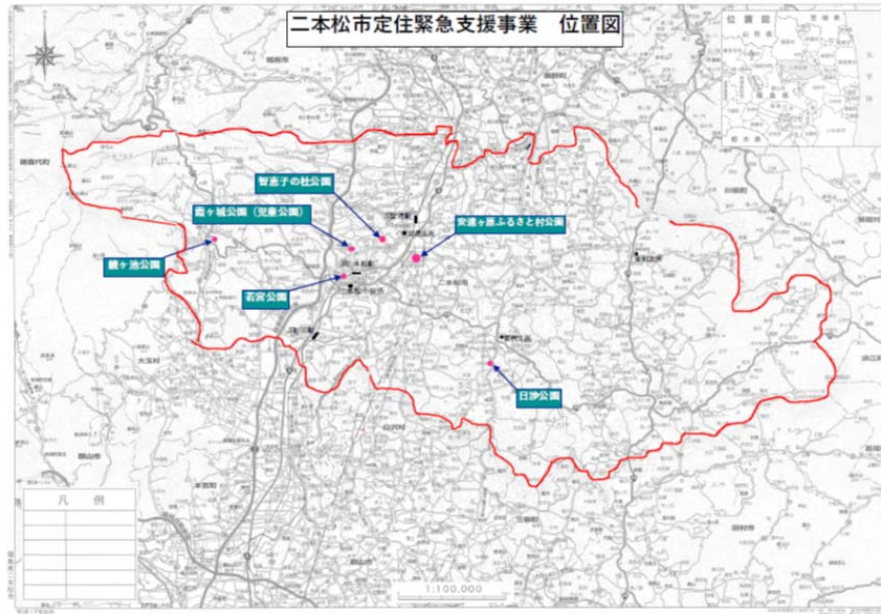
県名	福島県	交付期間	平成25年度	交付対象事業費	102,585
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成26年度	評価対象事業	A-1-1

### 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

市内各地域にある公園の中で、利用頻度が高く一定の規模があり、より多くの子ども達が利用できる公園の遊具を更新することによって、子ども達が安心して運動できる環境を整え、放射線の健康への不安から外出が減り、運動不足となっている子ども達の運動機会を増やし、運動不足と肥満傾向の解消を図る。

#### 【区域全体図】



#### 【事業詳細】

##### (1)事業概要

市内の子ども達の屋外での運動機会の確保のため、各地域にある又は近接する市内の公園の中で最も利用頻度が高く、一定の規模がありより多くの子ども達が利用できる公園の遊具を更新する。

##### <更新遊具>

- ・安達ヶ原ふるさと村公園 複合遊具2基、ブランコ5基、スベリ台1基、ジャングルジム1基  
スプリング遊具2基、ターザンロープ1基、シーソー2基
- ・霞ヶ城公園 ブランコ1基、回転遊具1基、シーソー1基、チェーンネット1基、スベリ台付リングジャングル1基、スベリ台1基、回転ジャングルジム1基、スプリング遊具1基
- ・若宮公園 ブランコ1基、鋼製コンビネーション1基、スベリ台1基、グローブジャングル1基
- ・鏡ヶ池公園 木製コンビネーション1基
- ・智恵子の杜公園 コンビネーション遊具1基、スプリング遊具1基
- ・日涉公園 ブランコ1基、回旋塔1基、チェーンネット1基、複合遊具1基、スプリング遊具1基、ロープウェイ1基

##### (2)実施状況

新しい遊具を設置した公園は、新しい遊びを提供することによって子ども達の関心を引くことができ、好評に利用されている。

特に市内のほぼ中心に位置する安達ヶ原ふるさと村公園においては、定住等緊急支援事業により屋内遊び場も拡張することで屋外と屋内の遊具が充実し、相乗効果によってますます利用者が増加することが期待される。

##### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

全国避難者情報による避難者数は平成26年12月現在で597人で、平成25年7月時点の618人より減少が見られるが、避難者のうち327人が既に他市町村に転出届を提出しており、児童生徒数及びその保護者の世代の人口が減少し、依然として地域経済と産業復興に影響を及ぼしている。

##### (4)その他

別添公園利用状況写真参照

#### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 公園遊具の更新をすることにより、子どもたちの運動機会の確保をすることができ、子どもたちの肥満傾向が改善した(肥満傾向児童割合が0.42%減少)。

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 公園の遊具更新を実施したことについて、市広報誌やホームページにより周知を図ることで、利用したことのない児童の利用を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成27年12月時点

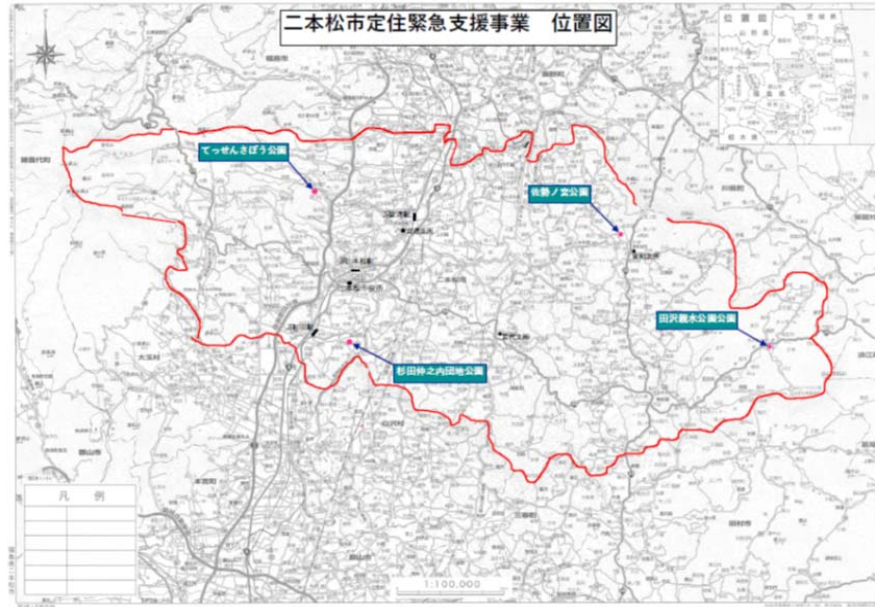
県名	福島県	交付期間	平成25年	交付対象事業費	14,247
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成27年12月	評価対象事業	A-1-2

## 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

二本松市内の各地域の拠点となっている公園における遊具を更新し子ども達が安心して運動できる環境を整えることにより、放射線の健康への不安から外出が減り、運動不足となっている子ども達の運動機会を増加させ、運動不足と肥満傾向の解消を図る。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

#### (1)事業概要

各地域の拠点となっている公園の遊具を更新し、身近に安全で安心して遊ぶことができる公園を整備することによって、多くの子ども達の屋外での運動機会の確保を図る。杉田仲之内団地他3公園の遊具の更新

#### (2)事業の実施状況

・杉田仲之内団地公園	複合遊具 ブランコ	平成26年6月26日設置 平成26年6月26日設置	平成26年7月4日供用開始 平成26年7月4日供用開始
・てっせんさぼう公園	複合遊具 2連ブランコ	平成26年6月26日設置 平成26年6月26日設置	平成26年7月4日供用開始 平成26年7月4日供用開始
・佐勢ノ宮公園	複合遊具 2連ブランコ	平成26年4月30日更新 平成26年4月30日更新	平成26年5月8日供用開始 平成26年5月8日供用開始
・田沢親水公園	複合遊具 2連ブランコ 4連ブランコ	平成26年6月26日設置 平成26年6月26日更新 平成26年6月26日更新	平成26年7月4日供用開始 平成26年7月4日供用開始 平成26年7月4日供用開始
・公園利用者数計	延べ約1,220人/月		

#### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・現住人口：57,394人(平成25年1月1日現在) ⇒ 55,648人(平成27年12月1日現在)
- ・避難者人口：618人(平成24年10月1日現在) ⇒ 547人(平成27年12月1日現在)
- ※全国避難者情報システムによる
- ・学年別・男女別・種目別の項目 県平均を上回る項目27 下回る項目53  
(平成24年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)
- 県平均を上回る項目50 下回る項目31  
(平成27年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)
- ・市内小学校における肥満傾向児童の割合：12.40%(平成24年度) ⇒ 11.36%(平成27年度)
- ※学校保健統計

#### (4)その他

別添施設写真のとおり

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 公園の遊具の更新を行ったことにより、平成25年の更新前に比べ、4公園の合計月間利用者が約43%増加している。
- 平成25年度に設置した6公園と併せ10公園の遊具を更新したことにより、市内肥満傾向児童の割合が、平成24年度と比較して0.68%減少している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

利用者が増えてきていることから、公園内の整地等の回数を増やして快適な利用環境の維持に努めるとともに、利用者に対してアンケート等を実施し利用者の意見を取り入れ、より一層の利用者の拡大を図っていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

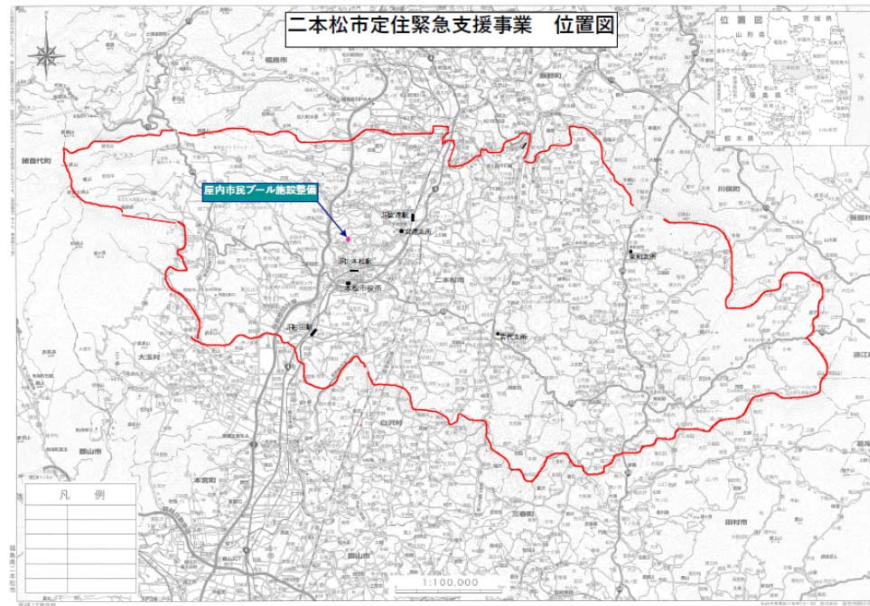
県名	福島県	交付期間	平成25年	交付対象事業費	1,567,515
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成29年12月	評価対象事業	B-1-1

## 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

放射線が健康に与える影響を懸念し屋外での遊びや運動を控える子どもが増え、子ども達に肥満傾向と運動能力の低下が現れていることから、子ども達が安全に安心して利用できる屋内温水プールを整備する。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

(1)事業概要  
放射線が健康へ与える影響に対する不安から屋外市民プールの子どもの利用者が減少したため、子ども達が安全に安心して利用できる屋内での温水プールを整備することで、子ども達の運動の機会を確保するとともに肥満傾向の解消と体力の向上を図る。

#### (2)事業の実施状況

平成27年5月11日 ~ 平成28年12月15日 (供用開始平成29年3月25日)

【工期】

温水プール (25m×6コース)、幼児用プール、採暖室、シャワー室、更衣室等

【施設】

・利用時間 午前9時～午後9時(毎月第1月曜定休)

【運営状況】

・利用料 幼児：無料 小中学校：200円 高校生：300円

一般：500円 60歳以上：400円

・利用者数 60,200人(平成29年3月25日～9月30日)

(3)人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

・現住人口 : 56,866人(平成26年1月1日現在) ⇒ 56,699人(平成29年9月1日現在)

・避難者人口 : 361人(平成26年5月31日現在) ⇒ 489人(平成29年9月30日現在)

※全国避難者情報システムによる

・学年別・男女別・種目別の項目 県平均を上回る項目27 下回る項目53

(平成24年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)

県平均を上回る項目45 下回る項目43

(平成28年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)

・市内小学校における肥満傾向児童の割合：12.40%(平成24年度) ⇒ 11.46%(平成29年度) ※学校保健統計

(4)その他



### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○平成25年7～8月の2ヵ月間開場した屋外プールでは、中学生以下の利用者が5,636人で、月平均利用者が2,818人だった。平成29年3月オープンした屋内市民プールにおいては、9月までの7ヵ月間で26,212人の利用者があり、月平均では、3,744人で、平成25年と比較して33%の利用者増となっている。  
○市内肥満傾向児童の割合が、平成25年度と比較して0.68%減少している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

当初の年間利用者数は60,000人を想定していたが、広報や市のウェブサイト等で幅広く周知を行うことで、市外からの利用者も増え、オープンから7ヵ月で60,200人の入場者があった。今後は、「水泳教室」や「水中ウォーク」、「水泳ワンポイントアドバイス」等、水泳が苦手な子どもでもプールに通いたくなるようなプログラムを更に充実させていくことで、利用者の増加を図り、体力・運動能力の向上に努めていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成27年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年	交付対象事業費	201,458
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成27年12月	評価対象事業	C-1-1

### 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

放射線の健康への影響の不安から外で遊ぶ事が少なくなり、運動不足や肥満傾向のある子ども達等に安心して遊ぶことができる施設として安達ヶ原ふるさと村公園内に屋内遊び場を整備したが、緊急に整備したもので十分な空間を確保できなかったため、入場制限をする時間帯が生じている。そこで、屋内遊び場を増築し拡張整備するとともに、遊具を設置することによって、より多くの子ども達に運動の機会を提供するもの。

#### 【区域全体図】



#### 【事業詳細】

##### (1)事業概要

###### ○基幹事業

子どもの遊び場の確保について、多くの市民から要望を受け、安達ヶ原ふるさと村公園に屋内遊び場(げんきキッズパークにほんまつ)を整備し、平成25年2月28日にオープンしたが、既存の施設を改修し緊急に整備したため、十分なスペースを確保できず、入場制限をする時間帯が生じている。また、利用者からは、砂場の整備や、走り回ることができる広いスペースを望む声が多く寄せられている。

については、より多くの子どもたちに安心して遊び・運動する機会を提供するため既存の屋内遊び場を増築し拡張整備を行う。

- ・施工面積 510㎡(増築405㎡、通路・外溝105㎡)
- ・整備する遊具:クライミングウォール、サーキット、マルチゴール、砂場、アダラ(雲梯やのぼり棒等の複合遊具)、スーパーノバ(回転遊具)

##### (2)事業の実施状況

平成26年  
平成26年12月5日一般利用開始

##### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- 全国避難者情報システムによる
- ・現住人口 :57,394人(平成25年1月1日現在) ⇒ 55,648人(平成27年12月1日現在)
- ・避難者人口: 618人(平成24年10月1日現在) ⇒ 547人(平成27年12月1日現在)
- ※全国避難者情報システムによる
- ・市内小学校における肥満傾向児童の割合:12.40%(平成24年度) ⇒ 11.36%(平成27年度)
- ※学校保健統計

##### (4)その他



#### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○屋内遊び場の拡張と遊具の設置により、平成25年4月～11月の利用者が47,946人だったのに対し、平成27年4月～11月の利用者は87,635人と約1.8倍に大きく伸びている。  
○遊具の更新を行った各地域の主要な公園においても利用者の増加が見られており、子ども達の運動時間が延びたと考えられる。(肥満傾向児童の割合の減少0.68%)

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

屋内施設整備後、多くの子ども達が訪れ、1日の平均利用者も当初目標の335人/日を上回る340人/日に達している。今後も増加する見込みであることから、プレイリーダーを適正に配置し、引き続き子ども達にストレスなく安全に遊ぶことができる遊び場の提供をしていくことで、運動能力の向上を図っていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成27年12月時点

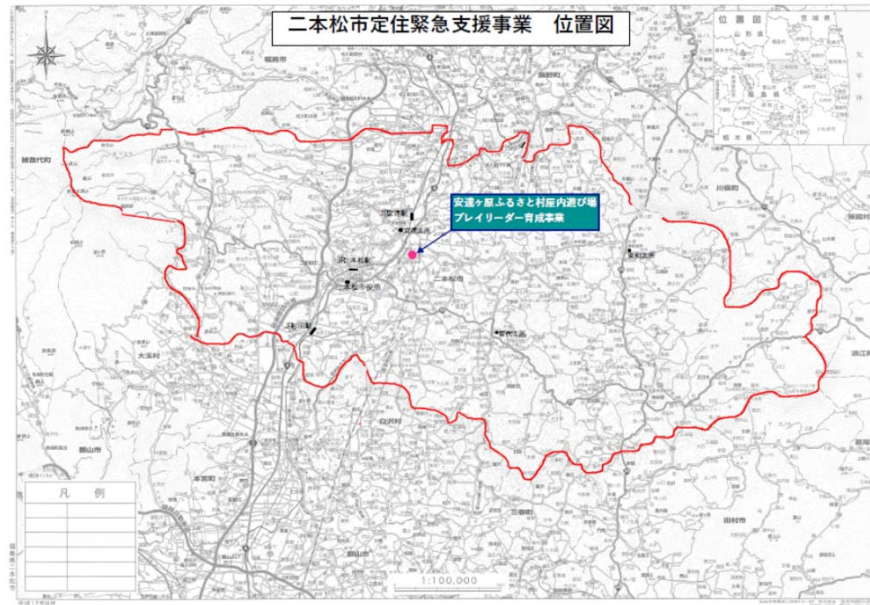
県名	福島県	交付期間	平成26年	交付対象事業費	300,000
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成27年12月	評価対象事業	◆C-1-1-1

### 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○子ども達に積極的に関わりながら遊びを誘導し、安全安心な運動環境を提供できる資質の高いプレイリーダーを育成し、安達ヶ原ふるさと村公園屋内遊び場の施設効果を高め、屋外での遊びを控えている子ども達の運動不足や肥満傾向の解消を図る。

#### 【区域全体図】



#### 【事業詳細】

##### (1)事業概要

安達ヶ原ふるさと村公園屋内遊び場の施設効果を高めるために、施設拡張に併せて指導員のより一層のプレイリーダーとしての資質向上が求められる。単に、子ども達の安全を見守ったりするだけではなく、積極的に子ども達と関わりを持ち、子どもの興味や関心を引き出し、遊びを誘導できるような資質を身につけられるよう、遊具の活用方法などについて講習会を開催する。

##### (2)事業の実施状況

プレイリーダー研修の実施

実施日 平成26年2月26日 平成26年12月3日、4日、5日

平成27年2月17日、18日

計6回開催 延べ75名参加

##### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

・現住人口 : 57,394人(平成25年1月1日現在) ⇒ 55,648人(平成27年12月1日現在)

・避難者人口: 618人(平成24年10月1日現在) ⇒ 547人(平成27年12月1日現在)

※全国避難者情報システムによる

・市内小学校における肥満傾向児童の割合: 12.40%(平成24年度) ⇒ 11.36%(平成27年度)

※学校保健統計

##### (4)その他



#### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○屋内遊び場の拡張と遊具の設置により、平成25年4月～11月の利用者が47,946人だったのに対し、平成27年4月～11月の利用者は87,635人と約1.8倍に大きく伸びている。

○遊具の更新を行った各地域の主要な公園においても利用者の増加が見られており、子ども達の運動時間が延びたと考えられる。(肥満傾向児童の割合の減少0.68%)

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

屋内施設整備後、多くの子ども達が訪れ、1日の平均利用者も当初目標の335人/日を上回る340人/日に達している。今後も増加する見込みであることから、プレイリーダーを適正に配置し、引き続き子ども達にストレスなく安全に遊ぶことができる遊び場の提供をしていくことで、運動能力の向上を図っていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

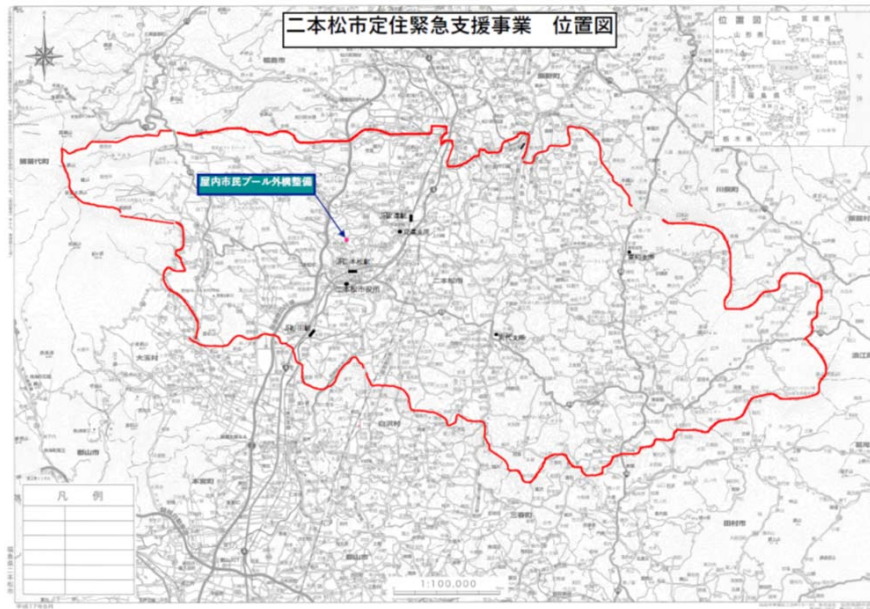
県名	福島県	交付期間	平成27年	交付対象事業費	1,567,515
市町村名	二本松市	実績評価実施時期	平成29年12月	評価対象事業	◆B-1-1-1

### 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

屋内温水プールの利用にあたり、路線バス等公共交通による移動が困難であることから、自動車等による施設の利用が見込まれるため、屋内温水プールの施設効果を高め、より利用しやすい施設とするために駐車場を整備する。

#### 【区域全体図】



#### 【事業詳細】

##### (1)事業概要

屋内市民プールを利用するにあたり、路線バス等公共交通による移動が困難であることから、自動車等による施設の利用が見込まれる。このため、より多くの子もたちが屋内市民プールを利用し、運動機会確保や体力の向上を図ることができるよう、駐車場を整備する。

##### (2)事業の実施状況

【工期】 平成28年9月9日 ~ 平成29年3月24日 (供用開始平成29年3月25日)  
 【施設】 駐車場舗装：アスファルト及び瓦舗装 3,149㎡ (駐車場 87台)  
 LED街路灯等設置：20台  
 駐輪場

##### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・現住人口：56,866人(平成26年1月1日現在) ⇒ 56,699人(平成29年9月1日現在)
- ・避難者人口：361人(平成26年5月31日現在) ⇒ 489人(平成29年9月30日現在)  
 ※全国避難者情報システムによる
- ・学年別・男女別・種目別の項目 県平均を上回る項目27 下回る項目53  
 (平成24年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)  
 県平均を上回る項目45 下回る項目43  
 (平成28年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果)
- ・市内小学校における肥満傾向児童の割合：12.40%(平成24年度) ⇒ 11.36%(平成27年度) ※学校保健統計

##### (4)その他



#### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○平成25年7~8月の2ヵ月間開場した屋外プールでは、中学生以下の利用者が5,636人で、月平均利用者が2,818人だった。平成29年3月オープンした屋内市民プールにおいては、9月までの7ヵ月間で26,212人の利用者があり、月平均では、3,744人で、平成25年と比較して33%の利用者増となっている。当初想定していた年間利用者数を7ヵ月で達成する等多数の利用者がある。

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

広報や市のウェブサイト等で幅広く周知を行うことで、市外からの利用者も増え、オープンから7ヵ月で60,200人の入場者があった。市外からの利用者増加に伴い、駐車場の利用状況も増加傾向にある。施設の維持管理に努め、より一層の施設利用者の拡大を図っていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。